

比の高いことに妊卵，甲状腺特に前者の存在が密に関連していることが推想された。なお insulin との関連において alloxan 投与実験を行つたが，妊，非妊共に一定した成績は得られなかつた。

41. 妊娠動物に於ける Reilly 現象の成立について (第5報)

(東京医大)

秦清三郎，高橋禎昌，野平知雄，斎藤成一，前島昭二，桶谷正一，柵山勝利，林 達朗，池田純輔，新部光宏，陳 育俊，石井秀朗，長谷川行信，喜納進，宇治恒夫，阿部照雄，李 秋笙，草刈一洋，二戸為茂，田口 武，横田尙徳，比嘉恒雄，新里陽弘，村田博美，熊谷豊一，菊島東示，林 得軒

私どもは，Reilly の実験方法に考按を加えて，妊娠動物の腹部各所の自律神経部位に各種の侵襲原因を加えるとき，一部の侵襲は確実に妊娠子宮に Reilly 現象を成立させ，その際の病変は血管変化による退行性病変と云う基本的な点に於て子癩の病理学的所見に類似することを明かにした。次に妊娠動物に於ける Reilly 現象作製に際して，痙攣を伴つて斃死する様な侵襲が成立する場合，各種の実験成績から帰納して，中枢に於ける血管攣縮及び交感神経系の興奮性の優越が重要な役割を演じている事を実証した。次に同様侵襲後に於けるアドレナリン，ノルアドレナリンの定量値，子宮胎盤血行の形態学的動静，ミネラルコルチコイドの定量，旁神経叢内の神経節細胞の変化，その他の観察に基き，子宮頸部への侵襲が，アドレナリン系作働過剰を惹起することから子宮の局所貧血を招き多彩な症状を発現する。そしてこの様な機序が人類に特有な理由は，立体歩行の衝撃を考える外はない，との推論を提出した。次に同様侵襲を加えた後，子宮神経叢，脳下垂体後葉，副腎皮質及髄質を結ぶ三角形に於て，如何なる相互干渉が演ぜられるかを，副腎の組織所見，アスコルビン酸量，抗利尿ホルモン，下垂体別除と副腎との関係等を通じて観察し，子宮頸部の神経叢に対する物理的刺戟は，上行して直ちに下垂体後葉ホルモンの放出を促し，他方同じ子宮神経叢からの情報は上行の途中一転して副腎髄質からアドレナリンを出動させる，と云う現象を確め得た。今回は，同様侵襲を加えた後，後葉ホルモン物質の動静を腹直筋の筋電図によつて追跡し，血中アドレナリンの消長と子宮筋電図の変化の関係を観察し，更に動物の痙攣斃死に至る過程

の中枢の変動を脳波及び Pickworth 氏法によつて観察して，次の如き成績を得た。1) 侵襲後白鼠腹直筋の筋電図を追跡すると，時間的経過からほぼ抗利尿物質出現のピーク時に一致して特有のスパイクを示す筋電図が得られ，之はオキシトチン注射時に見られる筋電図と概ね同定することが出来た。2) 犬の利尿曲線に於て，水平傾向が再び上昇傾向に移る頃に一致して血中アドレナリンが最高値に達する傾向がみられた。3) 前項2者の場合の時間的経過に重ねて同様に処理した別の動物によつて子宮の筋電図をとること，子宮の動物によつて子宮の筋電図をとると，子宮の運動が次第に消失する姿がとらえられた。4) 時間経過から痙攣直前とされる頃の Pickworth 像では脳血管は軽度貧血であるが，脳波では18~30c/s が現われ，痙攣直後は Pickworth 像の蒼白化に対し，脳波では4~7c/s を示すことが多かつた。以上を総合して，子宮神経叢に発し，旧皮質，間脳，下垂体，副腎を連ねる多元的にして多彩な妊娠中毒症の反応系譜を結論する。

42. 妊産婦における尿中エストロゲンの消長

(久留米大) 安藤 喜寿

妊娠時 Estrogen (以下Eと略記) に関しては Zondek の実験以来諸家により試みられ，妊娠時尿中E排泄量は妊娠経過に伴つて漸増し，妊娠9~10カ月で Peak をなす事及びその分泌源は主として胎盤に関連ある事は周知の事実となつてゐる。しかしその詳細な点についてみればなお不明の点が多い，私は Hydroquinon-Kober 法によつて妊産婦尿中E値を測定し，以下の如き所見を得たので報告する。

(1) 妊娠時のE排泄量は妊娠3カ月頃から増量し，以後妊娠経過に伴つて漸増し，妊娠9~10カ月で Peak となり，1日排泄量は約3mgとなる。

(2) 妊娠時のEを Estrone (EO), Estradiol (ED), Estriol (ET) 分画について検討するに，妊娠時にはETが頗る多い。

(3) 分娩後のE排泄値は著明に減量し，分娩後4~5日で非妊婦正常値に接近する。

(4) 帝王切開術後或は急速に人工的に胎盤を除去した時も3~4日で非妊婦正常値に接近する。

(5) Hyperemesis 患者ではEDが極めて多く，総Eの70%を示した。

(6) 晩期妊娠中毒症患者では総量の低下が認められ，各分画の相互関係には認むべき所見がなかつた。